

# 消防団たずねあるき

東高丸分団 山下 法子

垂水消防団東高丸分団は、団員14名、うち女性2名の分団です。

東高丸分団が管轄するこの地域は、江戸期から明治初期までは明石郡東垂水村の一部でしたが、明治22年に周辺の村と一つになり、明石郡垂水村そして現在の神戸市垂水区といった編入の歴史があります。

昔は、山と田んぼばかりの地域でしたが、50~60年程前から道路が整備され大きく開発が進みベットタウンとして現在に至っています。

当分団が管轄する地域の歴史は、昭和初期に英国人ジェームス氏が外国人向け別荘地として開発した通称「ジェームス山」が有名です。また、この地域周辺には数多くの滝があったことから、現在の「垂水」の地名が生まれたと言われており、今は殆ど滝が残っていませんが、その史実をもとに山陽電車の駅名の一つに「滝の茶屋」といった名が付けられています。

さて、私が消防団に入団するきっかけとなったのは、27年前の阪神大震災によるものが、当時、近所の消防団員が、漏洩するガスに対し、関係先に連絡や火災警戒、壊れた道路での交通整理、水等の配給の支援など、困った人への手助けを率先して行っているのを目の当たりにし感動し、自分もその一員になりたいとの思い、女性が入団できることになったことが大きなきっかけでした。

そんな地域を管轄する東高丸分団は、震災以降も変わらず、地域と密着した活動を展開しています。

地域の防災訓練には積極的に参加し、消火器の使い方、けがの手当て、心肺蘇生法、防火水槽の点検、市民消火用ポンプの使い方など住民の方に指導し、また、雨期には危険個所のパトロール、秋には祭りの警備などを行なっています。

コロナ禍の最近では、しっかりとした感染防止を行い、地元消防団の利を活かして民生委員の方々、公民館等と協力して、一人暮らし宅を中心に住宅用火災警報器の設置促進や古い警報器の点検交換の呼び掛けに日々汗しています。今後もこうした消防団員の活動をとおして、住民の方と共にありたいと思います。

